



FRIENDS

The Friendship Force of Saitama 会報 第100号 (2018)

<http://www.ffi-saitama.com/>

カナダ・アメリカ渡航 2018 年 6 月 11 日 ~ 26 日

対照的だったトロントとシンシナティ AAC 原田 史



3年前に埼玉に来られたトロントクラブ。あの時のEDのロイドが HC として先頭に立って、全力投球で組み立ててくださった数々のプランの素晴らしさ、驚くばかりでした。

フェリーで 10 分余りの Ward's Island は桃源郷もかくやと、みんな感嘆しきり。自然を満喫した次の日には都心の市場の2階での本格的料理教室。主菜が shepherd's pie と聞いて、なるほど英連邦の国なんだと納得。連綿と続く食文化。

この日の午後に粘土工房で「石で作られた目印」Inuksuk 作りを体験。古代の交通標識だったとか。各自の作品を自然乾燥後に持ち帰るということで、いささか難渋する場面も。

オーケストラ演奏を聞いた次の夜には国立バレエ団の通し稽古も鑑賞し、この大都市の文化を実感させて頂く機会となりました。日本に無いものとして驚きだったのは郊外の大ヒンズー教寺院。インド系移民も多いこの地域なればこそ、奉仕での建造とか。



1 泊のナイアガラ見物を挟んで、オハイオ州シンシナティへ。人口 30 万人ほどの州内 3 番目の都市。オハイオ川に面した美しい景観。ゆったりした人々という印象です。最大の目玉は Underground Railroad Freedom Center。対岸のケンタッキー州から逃れてくる黒人奴隷をかくまい、逃がす秘密ルートに由来し、その他の抑圧をも取り上げている機構。

ピクニックと言うことで、遠出した Serpent Mound は国内最大規模の形象墳。のどかな景色で、楽しめました。付近のアーミッシュの村にも立ち寄り、典型的なランチも。フリーデイ 2 日間のスケジュールでゆったり。個人的にはクローン温室、シンシナティ美術館訪問が魅力的で、開催中の中国・兵馬俑展に遭遇してラッキーでした。

両クラブでのホストは 60 代半ばの Liz と Mimi、個性的な、賢いお二人、幸せでした。



お出掛け

郡山 育子



飲み物と袋入りアウトドアチェアの埃を払い車に。

Jane。いかにもシンシナティを感じさせるカッコいい女性が私のホスト。1800年代のたたずまいにラブラドルの白、黒の2匹と猫3匹との暮し。ある晩 Jane『明日の晩、野外コンサート帰り友達の所で卵を分けてもらおう。』って事は初日に見た珍しい色の卵の事？翌夕方ポテトチップス、

Jane の運転で恒例の up down up down と夕日の中を。月が照らす緑豊かな湖辺での Cincinnati Symphony Orchestra 演奏会。Classical, Western Side Story Medley。ワイングラス片手にキスをしながら聴きほれる、そう！The US だ。さて鶏の飼主既にお休み。家の窓から漏れる灯りと月を頼りに鶏小屋へ。最初の柵戸を開く嚴重だ、二つ目柵戸そして小屋の木戸開ける、えっ見えない！おおっとバタバタと6羽ほどの鶏が私達の前を横切る。しゃがみ込み両手左右大きく地面を探る。卵、卵は何処に、これは抜け毛、これはうぬっ？うーん見つからない何処だ。結果収穫無し。贅沢で滑稽な日だった。いや～たまらない。

初めて渡航させていただきました

高橋 節子

私がお世話になりましたホストの方はシェリーさんです。図書館員を退職され、週3回フィットネスクラブに通っていらっしゃるそうです。おとしの割にはすこぶるお元気で明るいお人柄です。

日中はたくさんのスケジュールを楽しみました。お城のような建物「カサ・ロマ」。水力発電で巨額の富を得た大富豪が建てた豪邸です。98の豪華な部屋とぜいたくな調度品は見事でした。セントローレンスマーケットというトロント市民の台所となっているマーケットの2階で五つ星を授与されたシェフと一緒に私達がいただく5品料理を30人分作りました。



トロントはカナダ最大の都市で、個人的には三度目の訪問となりましたが、第一の目的地は“シンシナティ”へ行くことでした。と言うのも、昔観た映画のタイトル、ステーブ・マックイン主演の「シンシナティ・キッド」の町へ行ける!!（私は大ファンでした。）と思い申し込んだのですが、しかし残念ながら義弟の法事があり、トロントだけになってしまいました。それはさておき、トロン

自分たちが作ったお料理は特別おいしく感じました。これは一部ですがたくさんの素晴らしい体験をさせていただきました。

皆様と過ごした楽しい一週間は忘れないでしょう。最後にこの旅行にいろいろ準備をしていただきました両クラブの役員の皆様に深く感謝申し上げます。



トロントへ

榎井 徳江

トクラブのおおらかで、ゆったりとした人々の歓迎を受け素晴らしいスケジュールのもと、トロント・シンフォニーオーケストラの演奏会、ナショナルバレエ団のドレスリハーサル(初めての経験)、CNタワーへの散策、地元のシェフさんとのランチの為に買い物とクッキング、ヒンズーテンプル訪問、トロントアイランドパークへ船に乗りピクニック、などなど。ス・テ・キ・な一週間、お天気にも恵まれ最後にホテルに泊まり、ナイアガラの滝へ！このようなワンダフルな旅が、私の旅の一頁に又加わりました。

関係者の皆様、ほんとうにありがとうございました。

グレイターシンシナティにステイして 牧野内 豊子

今回カナダ～ナイアガラ滝～アメリカへのホームステイに参加しました。オハイオ州はどの辺りか地図で再確認しての渡航でした。シンシナティでは女3人(増田さん、堀切さん)での楽しい1週間でした。ホストのMoritaさんの名前は日本語のモリタと発音が同じでご本人も承知していました。日本の事も弟さんが愛知大学で教授をした時に1ヶ月滞在した事も有り良い印象を持って下さっていました。3階建ての家で、私達の部屋は2,3階でしたので、荷物が～！と思いましたが、ホ

ストが大きな籠を用意してくれて、1階に置いたスーツケースから必要な物を入れて部屋に持って行きましたが、とても良い方法でした。沢山見学した中で、最も印象に残ったのはFreedom Centerで、奴隷解放に関する貴重な資料が展示してあり重い歴史を感じました。フリーデーも色々なプランを用意してあり、希望する所に行けました。デイホストとの連携も良く毎日が充実した日々でしたし、夕方の散歩で庭先に蛍が飛んでいたのも素晴らしい体験でした。

トロントとシンシナティ渡航に参加して 丸山 由喜雄

トロント空港での歓迎から、トロント交響楽団、バレエ、マーケット見学&料理、Ward's Islandなどたくさんの行事を楽しみました。

ホストLauraさんの息子さんのお嫁さんが日本人であり親日家で、また絵が上手で家の中に多くのすばらしい絵が飾ってありました。トロントでは、特にコンサートとバレエは、印象に残っています。

シンシナティのホストBob&Soniaさんには、英語を教えていただきました。お宅は、1861年にドイツ人の大工が建てた家でした。シンシナティでは、フリーダムセンター、アーミッシュ、アメリカ空軍博物館、Serpent Mound、コヴィントン洪水壁画、クルーズ船でのフェアエルパーティなど楽しみました。特にアメリカ空軍博物館は、興味深かったです。第1次世界大戦前から現代までの空

軍のたくさんの飛行機やミサイルなどの展示や、ケネディ大統領のエアーホースワンも展示してありました。

両都市とも日本車が多いのが印象的で、両ホストの車も日本車でした。

最後に、この北米渡航について、FF埼玉、FFトロント、FFグレイターシンシナティの皆様にお世話になりました。



《日 程》

6月11日 トロント7泊(14人)
 ↓ Lawrence Market Kitchenで料理教室, Toronto Islands Tour
 ↓ Toronto Symphony Orchestra・National Ballet鑑賞など
 17日
 18日 オプション ナイアガラ観光 宿泊(14人)
 19日 シンシナティ7泊(16人)
 ↓ シンシナティ ダウンタウン散策、Freedom Center見学
 ↓ アーミッシュ居住地、American Picnic体験
 27日

《費 用》

航空券等	: 20.2	単位万円
ナイアガラ1泊	: 1.0	
バスチャーター	: 1.8	
FF関連等	: 10.0	
計	約 33 万円	



☆☆☆ ニュージーランド英語研修の旅

AC 沼 純子 ☆☆☆



今回の英語研修は募集を初めて間もなく埼玉クラブ内で定員になり、英語研修に対する関心の深さを改めて知りました。

8 月実施でしたので、夏休みを利用した学生や仕事を持つ人が参加できたこと、英語研修参加のため入会した人達もいます。年齢や経歴は様々ですが、3 回のワークショップを経て渡航する頃にはグループとして良い雰囲気にとまっていきました。入会後まもない丸山さんの提案でLINEを結成、15名で情報の交換や打合せも頻繁に行われて、たいへん役立ちました。日本文化紹介(茶道、折り紙、ボトル包み、日本料理、歌、踊り)や通訳、写真、会計、冊子編集と役割分担をし、みんな自分の得意技を発揮しつつ協力し合いました。

英語研修といっても教室で英語の勉強をするわけではなく、ホームステイをしながらホストや先方の皆さんと

できるだけ英語で交流できるようプログラムが工夫されています。

今回受入れクラブとなったKapiti, Wanganui 両クラブは過去に英語研修の受入れをしており、2 週共に多彩で興味深いスケジュールでした。中でも、英語の質問が書かれたワークシートに従っての、街中散策、博物館見学、列車道中観察や、数種類の英語ゲームは楽しく、ホスト・ゲストお互いが理解し仲良くなる良い機会となりました。



「素晴らしいグループだった」「これまでの中で最高のdelegation(団体)」というお褒めの言葉もいただき、お世辞？と思いつつも、ホストの皆さんも楽しんでくださったのだなとうれしく思いました。優しい笑顔と暖かい思いやりに包まれてすごした 2 週間、多くのすてきな人たちに今回も出会うことができました。みなさま本当にありがとうございました！

《日 程》

- 8 月 19 日 Kapiti Coast club 6 泊
文化交流(生け花、茶道、折り紙、風呂敷包み、歌とダンス)
学校訪問、ウェリントン博物館見学
Bowling, Welcome potluck dinner with Mayor,
Tea at Debbie's home, Bird Sanctuary
- ↓
- 24 日
- 8 月 25 日 Wanganui club 6 泊
Wanganui 散策、forest&市庁舎訪問、
Farm, museums art galleries
英語ゲーム、すし・豚汁作り、クルーズと教会
- ↓
- 30 日



《費 用》 単位万円

航空券等	: 11.0 (各自ネット購入)
NZ内交通費	: 1.0
FF関連等	: 6.0
計	約 18 万円

初体験のホームステイ 長屋 正子

初めてのホームステイ・2018年8月19日—25日 New Zealand, Kapiti Coast に参加させていただきました。New Zealand へは今回を含めて3回目。NZ は大自然に囲まれたおおらかなお国柄で大好きでしたがホームステイの貴重な経験を通して益々その魅力に引きつけられました。

ホームステイ先は私と同年代のご夫婦。堅実な落ち着いた生活ぶりエコフレンドリーな生活習慣に大変に感心しました。水は大事に使い、無駄に部屋を暖房しない、生ごみは庭のコンポストに入れる。食事の量も適量を摂取。滞在初日から普段ご自分達が散歩に行く黒鳥も泳いでる美しいラグーンに連れて行ってくれました。後日にはタスマニア海が見える海岸と丘へ。ご夫婦の深い落ち着いた配慮のお蔭もあり、どこに行ってもゆったりとした心穏やかな時間を過ごすことが出来ました。

FFS15名とKapiti Clubのメンバーとのプログラム参加も NZ への深い理解の助けとなり忘れられない楽しい時間を持ちました。NZ での素晴らしいホームステイ

の経験を持てたことは幸運なことで Kapiti Club の皆様に大変に感謝しています。



NZ 英語研修旅行 石橋博之

今回の NZ 英語研修旅行が私の初めてのホームステイでした。英語には興味が有りますが話す機会がなく今回の研修旅行で少しは通じたかなと思いましたがほとんど通じてなかったような気がします。本当は私が聞き取れてないのが原因ですが。

Kapiti では、ホストご夫婦が大変親切で私の何だか良く分からない英語をじっくり聞いて頂き大変苦勞をしたと思います。ただ、日本と違いは、冬なのにリビング、ダイニング、部屋に暖房が無いのには驚きました。少し寒かったです。



Wanganui でもホスト家族には親切にして頂き大変感謝しています。こちらは天気に恵まれてリバーボートでの川を上り食事、川を下りの乗船から下船の間の川の流れ、岸の自然、民家の街並み、遠くの丘の景色等々美しい景色に感動しました。今回、企画して頂いた方々、ホスト家族、一緒に行った人達に大変感謝をしています。

初めてのFFでの渡航そして初めての南半球！ 新井 恭代

夏休みという事で娘二人(19歳、14歳)と共に参加させて頂きました。

皆様より2日早く Wellington に入り、ニュージーランドの首都を満喫しつつ親子でニュージーランド英語の洗礼を受けました^^; 早いし、発音も難しいし・・・ さてさて、ホームステイはどうなることか。

そんな不安もホストファミリーの皆様の温かさですぐに無くなりました。Kapiti は実家に帰ったような、Whanganui は友人の家に遊びに行ったような、そんな感じ。ホストファミリーとの生活の中で、文化や生活習慣の違いを学ぶ事ができました。また、親子で共通の経験でもある為、自分達の生活をより快適にする為に取り

入れる物、取り入れない物を納得のいく形で選択し日常生活に取り入れることが出来ています。



私だけでなく、娘達もまた是非参加させて頂きたいと帰国の飛行機の中でも話しておりました。

最後に・・・ご一緒させて頂いた皆様！
本当にありがとうございました。

FF 埼玉会報の歩み 池田 完之

2007年にFF正式会員になってから早くも11年。

この間、会報及びホームページ前任者の丸田泰正さんから引継ぎを受ける事になり、会報は2007年末(69号)に、ホームページは2008年末に受渡しを受け、その後堀切京子さんに受け継いで頂いたのは、会報はFFS20周年時の2012年又ホームページは2017年だったと思う。

丸田さん以降の会報担当者の時は、パソコン、デジカメやスキャナー付プリンターを誰でも使いこなすようになってきた事で、担当者の変更も容易になり新担当に変わる都度FF埼玉の会報改善も進んだと思う。またインターネットが普及し顔を合わさないでも原稿推敲をメールでやり取り出来るようになり作業が楽になるとともに、WEBでの印刷依頼が可能になり格段に安価で外観上高品質な会報を提供出来るようになった。

最も幸運だったのは、会報の電子化やホームページを作成した丸田さんがこの関係の専門家であった事で、色々アドバイスしてくれながら会報とホームページを小生に受渡ししてくれた事だと思う。



彼が会報を電子化したのは59号が最初？(ホームページ上最古の会報)で、それ以前の1992年から2004年迄の12年間は、当時の会員の方達がワープロなどで文章を作成し、絵を描いたり写真を張り付けたり皆で集まって編集をしていたと思われ、計算すると会報を年に4~5回発行していた事がうかがえ、非常に熱心な会員の方が多かった？のだろうと想像。

像。

昔の会報がどんなものだったか判らないが手作りの良さもあったろうと想像、クラブの歴史を網羅する上でも、旧会員から借用してスキャナーで読取り電子化していたら良かったのと思う。

10年前に比べて、スキャナーとGoogle Driveによる紙文書の電子文字化も、格段に高性能になっているので、

古い会報があれば 一報をお願いします。

上の写真は丸田さん以降の会報1ページ目の移り変わりで、担当の方のセンスにより表題や記事枠、写真の多用・枠取り、イラストの採用や原稿配置など些細なことだが改善が読み取れる。

今後も新しい担当の方になる都度、改善されていくのを楽しみにしています。

100号記念寄稿

昔の FRIENDS の写真から



66号

新理事の皆さん
(後列左から西村・高橋・小林・浜・鈴木、
前列左から牧野内・沼・諸部の皆さん)



世界大会で多くの友人達と再会 2011年8月26日から30日

82号



64号

好評だった花笠舞の様子を絵手紙で



72号

<Dzive 誌に掲載されました>



87号

ハワイアンバンドの演奏に合わせて踊るメンバー



74号

台湾 原住民の踊り

Reunion 2009NewZerland 渡航

新井 ミキエ

ホロヘヌークラブのジョイスとグラハムが4月末来日。3日間は新井が富士山バス旅行を岩崎さんと。皇居と花展見学は外山さん山本さんと。3日間は五十嵐さんが斎藤さんとお嬢さんと2回東京見物他。渡航に参加した沼、稲垣、小林、原田、堀切、加藤、田中、渡辺、中林さん12名で9年前の思い出話と写真に大きな花が咲いた木曽路でのクラス会。ジョイスも思わず天国にいる様…と私の耳元で囁く。渡辺さんの手作り人形にもニコリ！

自宅療養中の五十嵐さんも古い友人との再会に心を込めておもてなし。ジョイス達もシドニーを出発して50日の長い船旅の最後の日をno more shrineと言い、外出はせず五十嵐宅でゆっくり美味しい手料理とお庭の散歩。寛いだ一日を過ごせた事はジョイス達は勿論、五十嵐さんを案じていた私達も何よりも嬉しい事です。



朝日新聞社見学に行って来ました！

橋本 斉子 5月21日実施 参加者20名

5月のイベント、朝日新聞社の新聞作りの現場を体験できる社内見学ツアーに参加しました。新聞が出来上がるまでの過程を説明していただいたので、とても興味深く聞きました。大勢の人達の手によって作り上げられた新聞を毎日無造作に読み過ごしていたことにも少し反省しました。終了後に私たちが記載された新聞をもらってちょっと驚きました。見学後は昼食と浜離宮恩賜庭園散策して楽しかったです。メンバーの人とお会いしても、なかなか話すチャンスがない方々とおしゃべりして情報交換出来て良かったです。

計画をたててくださった理事の皆さんありがとうございました。



“ Youは何しに日本へ? ” 宇田 祐子

「意気投合したメキシコ人がいるんだけど、週末に家に連れていっていい？」成田空港でアルバイトをしている息子から、そんな電話があった。もちろんOK。わくわくした気持ちで待っていると、間もなく彼はやってきた。直前にTV番組「Youは何しに日本へ？」のインタビューを受け密着取材が決まったとのことでディレクター・カメラマン・通訳の3人と一緒に…。彼の名前はヨナタン、21歳。日本に観光で来たけど名古屋でスケートボード中にお金を落としてしまい、所持金は122円。仕方なく帰国しようとヒッチハイクで何とか成田に来たものの帰国便の変更はできず、帰国の日まであと20日。途方に暮れていたところで息子の拓哉と出会ったのだった。高校留学中にスケートボードを覚えた拓哉はスケートボードを抱えていたヨナタンとは即、話が合ったらしい。それからの20日間は息子がもう1人増えたような、本当に楽しい日々だった。助け合うのはお互い様。今まで国際交流を通じていろいろな出会いがあり、子どもにはどんな国の人とでも平らに向き合える人になって欲しいと思ってきた。過去のいろいろな国の人たちとの出会いが今回の出来事につながっている。フレンドシップの環境に感謝している。

Welcome

新入会員紹介

9月1日現在 会員数60名

一小路 さよこ さん

SAYOKO ICHIKOUJI



民間旅行会社のNZ ツアーに参加した折、ツアーの一環で個人のお宅訪問をしました。コジンマリし過ぎの集合住宅住まいの身にはため息ばかりで。たまたまそのツアー参加の地方のFFの方に教えて頂き、よく知らないまま英語の勉強になりそうと言う程度で、入会させて頂きました。何の取り柄もない専業主婦の私は、場違いで。でも皆様に上手く乗せて頂き、気が付けば この原稿書き。分からないなりに楽しそうな希望が持っています。宜しく、お願い致します。



広報より報告

さいたま市国際友好フェア
会場:市民の森

関東ブロック会議

5月3・4日に開かれ、「大人のホームステイ」のキャッチフレーズに興味を示された来場者に、展示した交流の様子を説明。会員増加に役立てようと説明に熱が入った。

今年は7月7日にMt. Fuji山梨クラブ主催で富士吉田市にある研修センターで開催された。FRの沼さん、理事7名が1泊で参加した。

<今後 の予定>

10月14日(日)		第30回 FF日本大会	愛媛クラブ主催
10月21日(日)	10:00～12:00	第10回 理事会	シーノ7F 講座室2
	13:00～15:00	ファンガレー受入れワークショップ	シーノ6F 調理実習室
11月10日(土)		ファンガレー受入れ	
～17日(土)			
11月24日(土)	10:00～12:00	第11回 理事会	シーノ7F 講座室3
	13:00～15:00	ファンガレー受入れ報告会	シーノ9F 学習室1
12月16日(日)		イヤーエンドパーティ	与野本町コミュニティセンター

<雑感>

人とのふれあいが何より楽しい、という方の集まりがFF。お互いに刺激しあって良い年の取り方をしたいと思っているこの頃です。(K・H)

編集・発行

ザ・フレンドシップ・フォース・オブ・埼玉 事務局
〒331-0815 さいたま市北区大成町4-202
TEL/FAX:048-664-2723
会報編集担当: 石橋、加藤、杉本、浜、浜島、堀切
ホームページ担当: 堀切
発行日:2018年9月30日